

プレスリリース - 第9回木造建築国際フォーラム閉会2019年4月10日

## 木造による環境の再構築

現在進行中の気候変動による途方もない災害の脅威に、積極的にそして具体的に即刻対応していくために、木造建築関連産業界全体が関心をもち、貢献しようののだということが、この第9回木造建築国際フォーラムによって示された。



当フォーラムは、今回始めて次の共通のテーマ：気候による衝撃への対応、必然的に課せられたテーマに中心をおいた。木造建築に関わるフランスの産業界の全てがこのテーマに興味を示した。このフォーラムは9回連続開催にも拘らず、1600人以上の参加者という記録を達成した。この成功はつまり、この気候変動に直面し、木造建築とその他のバイオ素材を利用して対応していこうという満場一致による共通の意思を代弁しているといつてよい。木造建築の発展は、この産業の専門家たちだけの関心事ではなく、主要な社会的環境的課題なのである。





木造建築国際フォーラムは、今や、フランスの木造建築産業の活性化の一手段として主要な地位を占めることとなった。今こそ、木造建築国際フォーラムをこの業界のその他の手段に最大限調和させ、共通の目的に向かって賢明にシナジー効果を活かし、21世紀の建築素材として木材利用を推進するときである。この理念にのっとり、第10回木造建築国際フォーラムは、2020年、パリで開催されることとした。

## 木造建築国際賞

### 木造建築国際賞とは：

国際的建築専門誌により授与される**木造建築国際賞**は、木造建築分野における優秀な功績に対して毎年行われる顕彰である。この賞は、木造がますます重視されつつある国々の交流を促進し、建築における木材利用の革新的思考の発展推進を願うものである。

昨年は、バンクーバー(カナダ)のザ・トールウッド・ハウス(The Tallwood House) 木造タワーを選出したが、今年は、出版社によって指名された国際審査委員会は、2019年4月、スイスのヴォー州(Canton de Vaud)で地元の木材によって施工された三角幾何学に基づく多目的ホールをスイスの木造建築を代表する新しい表現を示す模範的建築として賞賛し、この作品を実現した全ての建設関係者を代表してローザンヌを拠点とするローカルアルシテクチュール建築事務所(Localarchitecture)の建築家ロラン・ザウラー(Laurent Saurer)氏及びラシオ・ボア社(Ratio Bois)の木材エンジニア、マルセル・レシュタイナー氏(Marcel Rechsteiner)に国際賞を授与した。



この多目的ホールは、第二回木造建築国際賞にノミネートされた8作品の中で唯一の文化施設であり、5つの教育関連棟と2つの事務所を含んでいる。スイスの専門誌リグナム(Lignum)によって発表されたプロジェクトのこの多目的ホールが、スイスでもっとも高い木造建築物であるスルストフィ社(Suurstoffi)の事務所タワーより優位を占めたのである。

審査委員会は次のように今回の選定の理由を述べている。

「現代木造建築は、構造、エネルギーパフォーマンス、耐火性、音響性、そして、低放射率それぞれの点において、最大の技術的成果をあげることができる。それは同時に外面あるいは内部への感覚的あるいは詩的な感情を喚起することもできるのだ。その輪郭は、ジュラ地方の山々の稜線のラインとその地方の農家の伝統的木組みの幾何学的構成学とを同時に連想させながら地域の田園環境にとけ込んでいる。

ガラス開口部の処理は、スイスのフランス語圏の建築事務所ローカルアルシテクチュールが10年以上前から開発してきた技術で、この作品に美しい深みを添え、スポーツをする者に視覚的心地よさを与え、建築物に斬新さと統一感を生み出している。

内部空間は、音響効果、観覧席、肋木に連続する仕切りなどふんだんに使用された杉が、空間に明るさを添えている。それが過剰な感じとならないのは、この内部の幾何学による特殊な光の活性化によるものであろう。この空間は、厳格にスポーツに関わる技術的要求に答えながら、必要があれば、文化的スペースとして十分機能し、その折にはスポーツ施設であることを忘れさせれるように考案されている。

天井と屋根の幾何学的分離によって添え梁は隠され、また、主梁はスポーツ用綱策類を吊るすために逆U字型をしている。三角形の開口部の木製日よけは、輪郭をくっきりさせている。外表層の木材は、南北双方にある大きな開口部の枠にはめ込まれ保護されている。考案者が、庇に入るように配慮したものである。直角ではない輪郭が、影を操り、建物全体によってもたらされる非日常的な印象を強めている。審査委員会は、2016年半ばの引き渡し間際に起きた最初の作品の悲劇的な完全破壊に遭遇しながら、経験から得た知恵を生かし、さらに細部の最適化に配慮しつつ再建築を再出発させたチーム全体に敬意を表している。」

木造建築国際賞の規約に従い、審査委員会を構成する専門誌(リグナム : Lignum、ウッドデザインとビルディングマガジン : Wood Design & Building Magazine、セカンス・ボア : Séquences Bois、PUU, ミカドとトレ : Mikado et Trä!)は、今年度中にこの建築の出版掲載を行い、国際的に流布させる。それは、木曜日の夜に木造国際フォーラムの総会で行われ

たプレゼンテーションや第二回国際賞にノミネートされた8作品を紹介する巡回展示会を補うものである。

**ヴォー州の多目的ホール (スイス、ヴォー : Le Vaud, Suisse)**

用途 : 多目的ホール、文化的及びスポーツイベント

考案と施工 : 2014 – 2018

敷地面積 : 1,209 M2

建築主 : ヴォー州

建築家 : Localarchitecture, Lausanne (Giulia Altarelli, Elsa Jecic, Laurent Saurer, Manuel Bieler, Antoine Robert-Grandpierre)

木材エンジニア (BE bois) : Ratio Bois sàrl, Ecubens

幾何学エンジニア (BE géométrie) : Bovard & Nickl SA, Nyon

研究事務所 (BE) : 2M ingénierie civile SA, Yverdon-les-bains

水回り、電気エンジニア (BE fluids) : Weinmann-Energies SA, Echallens

照明 エンジニア (Eclairage) : Etienne Gillabert, Paris ; Aebischer & Bovigny, Lausanne

木材エンジニア (Entreprise bois) : Amédée Berrut SA, Collombey-Murraz

樹木の種類 (Essence) : Sapin blanc imprégné

**特別ゲスト : 講演者 渡辺 一正氏**

昨夏逝去された日本木造建築のフランスの偉大な専門家ロラン・シュバイツァー氏の友人、日本の優れた研究者である渡辺一正氏が、ロラン・シュバイツァー氏に敬意を表すべく、鳥取県よりこのフォーラムのために来仏し、二回の講演を行った。



フランスの建築家であり教授であるロラン・シュバイツァー氏は、彼の死の数日前まで、渡辺一正氏と連絡を取り続け、1850年頃まで続いた耐地震及び耐台風の伝統構法に関する渡辺氏の長年の研究の成果を賞賛していた。それは、ロラン・シュバイツァー氏が幾たびも訪日を繰り返して解明しようとしてきた課題、即ち「日本の伝統的な建築は柱梁構法によって壁も筋違もない開放的で透明な空間をどのようにして実現してきたのか？」に

対する光明を認めたからであった。当フォーラムは、ロラン・シュバイツァー氏に敬意を表するため、渡辺氏を招待し、ロラン・シュバイツァー氏が情熱的に求めたことをフランスの公衆に伝えようとした。

ヨーロッパでは、建築構造に関する全ての計算が、今日、ユーロコード（欧州連合格）に従ってなされている。つまり限界状態設計法による計算である。渡辺一正氏は、日本の古い伝統構法では、限界状態のクライテリアが大きく異なると説明する。木造建築は、壁や筋違に頼ることなく、振動時に生まれる側方弾性変形を活用する方法によって、台風や地震に対する靱性を獲得することができる。日本人は木材の弱さから強さを引き出すことを知っていたのだ。

渡辺一正氏の研究は、木造建築の将来にとってたいへん意義深い。なぜなら、我々は、不幸にも気候変動によって多くの台風に対処せざるをえなくなっている。その上、日本の伝統的建築方法は、木材使用において木材を節約する方法を我々に教えてくれる。



今日、ヨーロッパは、北米と木造建築から遠のいたアジアをしのぎ、木造建築分野の研究と実践の世界の主導者となっている。しかしながら、渡辺一正氏の考えは、欧州の将来に備えるものであり、彼の来欧はたいへん有意義であった。日本の伝統構法の原理が、明日のヨーロッパの木造建築に適用されていくよう、彼が早々に再び来欧し、一連の国際講演を行ってくれるよう期待している。

渡辺一正氏：

NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 理事長  
元建設省建築研究部長、元鳥取環境大学教授。

ご参考：基調講演「伝統木造建築技術の先端性」渡辺一正 先生：伝統構法を無形文化遺産に！ キックオフフォーラム 2015/03/28 <https://www.youtube.com/watch?v=4byxmrrgCus>

このプレスリリースに関する御連絡先

53, boulevard de la Villette - bal 144

75010 Paris

Nicole Valkyser Bergmann

Tél. 0033 (0)1 42 00 17 80 ou 0033 (0)6 85 41 96 91

[nicole@nvbcom.fr](mailto:nicole@nvbcom.fr)

[http://www.forum-boisconstruction.com/index\\_E.php](http://www.forum-boisconstruction.com/index_E.php)